



もりおか しょう
盛岡翔 さん (29)

奈良県出身。中学生のときに見たテレビ番組をきっかけにガラスの魅力に目覚める。大阪芸術大学を卒業後、薩摩びーどろ工芸に切子師として入社。現在は、職場で出会った広島県出身の妻と12月で1歳になる長男の3人で永野地区に居住。

切子師
×
盛岡翔



▼「好きなことを仕事にしろ」。永野地区にある薩摩びーどろ工芸株式会社で働く盛岡翔さんが、小さい頃から父親に言われていた言葉です。盛岡さんは奈良県出身で7年前に本町に移住。ガラスに繊細なカットを施し、複雑な文様を生み出す切子師として日々技術を磨いています。

▼芸術に囲まれた少年時代を過ごしていた盛岡さん。父親は文芸、母親はインテリアを学生時代に学んでいたそうです。「子どもの頃からものづくりに携わる仕事がしたいと思っていました。中学生のときにガラス工芸の腕を競うテレビを見たことが、この世界に興味を持ったきっかけです」と話します。高校は美術科、大学は両親と同じく大阪芸術大学で、工芸学科ガラス工芸コースに進学。「大学とは別に切子の教室に通い、そこでガラスを削る楽しさに気付きました。切子にどんだんはまっていたきましたね」と笑顔を見せます。

▼入社後は、吹き上がったガラスの口や底を平らにする作業を約2年、削り終わったガラスを磨く仕上げ作業を約3年経験した後、ガラスを削って文様を出す工程を任せられるようになりました。「カットを担当するようになって1年ちよっと。藍色などの暗い色、特に黒切子はガイドとなる割付線が全く見えず、ベテラン

ガラスを削るカッターは大きさや材質もさまざま。工程や文様によって使い分けます。



限定品の黒切子「弦」。複雑で繊細なカットが同社の技術の高さを物語ります。

の切子師だけがカットします」と難しさを話します。「薩摩切子はもともと殿様への献上品でした。厚みがあり色が被せてあるため深いカットになり、特徴的な濃淡が生まれます。吹き師と切子師が一つ一つ手作業で作るため、同じものが一つとしてありません」と熱を入れます。

▼「自分の名前を求めて買いに来てくれるのが理想です」と話す盛岡さん。「辛いことがあっても、切子に向かっているときは忘れさせてくれます」と続けます。「好きなことを仕事」にした盛岡さんは、切子師としての長い道のりを一歩ずつ確実に歩み続けています。

生活習慣を見直して

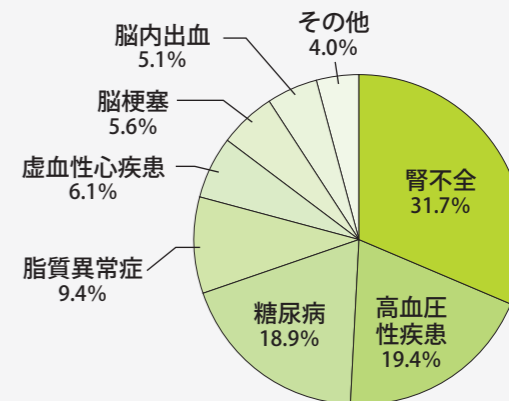
体と心とお財布にも優しく

■お問い合わせ先
保健福祉課保険係（内線 2135）

家計の負担にもなる生活習慣病

年々増え続ける医療費のうち、約1/4は生活習慣病にかかる医療費です。生活習慣病とはその名のとおり、生活習慣が原因で発症する疾患のこと。偏った食事や運動不足、ストレス、喫煙や過度の飲酒といった生活習慣が積み重なると発症のリスクが高くなります。生活習慣を見直すことで、病気の予防と家計への負担軽減につながります。

生活習慣病の疾病別の医療費割合



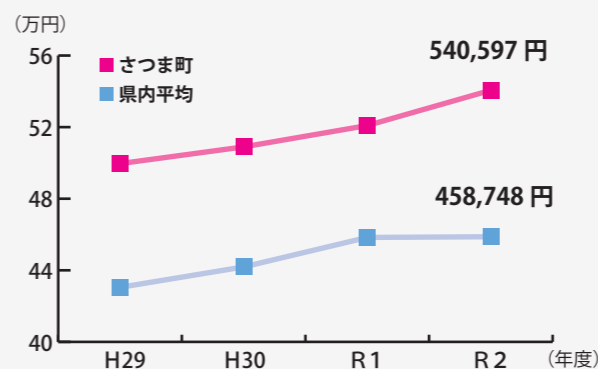
特定健診で予防・早期治療

生活習慣病を起こす血管の変化は10～15年かけてじわじわと進んでいきます。この間自覚症状はほとんどありませんが、症状が出る頃には病気が進行していることが多いです。

毎年40歳以上の国保の方に案内している特定健診では、血管を傷つける要因がないか、血管の変化が起きていないかを調べることができます。

1人あたり医療費 54万1千円

令和2年度の国民健康保険の総医療費は前年度から1.0%増加の26億6,946万円です。1人あたりの医療費は54万597円で、県内市町村平均の45万8,748円を大きく上回っています。



健康づくりのサポートを行っています

生活習慣病の発症は、遺伝や加齢など避けられない要因もありますが、食事や運動などの日々の生活習慣を見直すことで、発症、重症化のリスクは確実に減らすことができます。町では、保健師、管理栄養士、看護師が健康づくりのサポートを行っています。特定健診の結果に応じて、結果報告会や個別訪問などの支援をしています。生活習慣や健診結果に関する相談など、お気軽にご相談ください。



健診結果を一つずつ確認してアドバイスします